

検査内容変更のご案内

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構から出された「新しいABC分類 胃がんリスク層別化検査（ABC分類）2016年度改定版 運用の手引き」に基づき、下記に掲げる検査項目におきまして、検査内容を変更させていただきたくご案内申し上げます。

何卒、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

記

■実施日 平成 29年 4月 1日(土)ご依頼分より

■変更項目および変更内容

案内書 掲載頁	項目コード 統一コード	検査項目	変更箇所	新	現
146	セット コード 0195 項目 コード 5541 5542 5544	ABC検診 (胃がんリスク検診)	検査項目	胃がんリスク層別化検査 (ABC分類)	ABC検診 (胃がんリスク検診)
			陽性判定基準	ヘリコバクターピロリ抗体 3.0 U/mL以上	ヘリコバクターピロリ抗体 10.0 U/mL以上
				ペプシノゲン PG I 値が70.0ng/mL以下 かつPG I / II 比が3.0以下	ペプシノゲン PG I 値が70.0ng/mL以下 かつPG I / II 比が3.0以下
			報告書	胃がんリスク層別化検査 (ABC分類)報告書	ABC検診検査報告書

■新規項目・検査要綱

E群(除菌群)に対する対応を開始致します。ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、下記に示します新規検査項目「胃がんリスク層別化検査(ABC分類) **除菌有**」を御依頼ください。

案内書 掲載頁	項目コード 統一コード	検査項目	判断料	採取量(mL)	採取容器	保存	検査方法	所要日数
			実施料	必要量(mL)	提出容器			
未掲載	セット コード 0196	胃がんリスク層別化検査 (ABC分類) 除菌有	未収載	血液 3	01	冷	ヘリコバクターピロリ抗体:ELISA	2~6
				血清0.6	21		ペプシノゲン:ラテックス凝集法	

■備考

ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、ABC分類の判定の対象外となります。
除菌治療の結果に関わらず、**ヘリコバクターピロリ抗体価とペプシノゲン値の検査結果のみを報告します。分類はすべてE群(除菌群)として報告し、ABC分類の判定は行いません。**

■報告書例

報告区分	新コメント	旧コメント	
分類	A群	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。 ・逆流性食道炎などピロリ菌に関連しない病気に注意しましょう。 ・未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ感染や感染の既往がある方が含まれます。 ・一度は内視鏡検査などの画像検査を受けることが理想的です。 	健康的な胃粘膜です。胃の病気になる危険性は低いと考えられます。ただし、逆流性食道炎には注意しましょう。
	B群	<ul style="list-style-type: none"> ・少し弱った胃粘膜です。 ・胃潰瘍、十二指腸潰瘍などに注意しましょう。 ・胃がんのリスクもあります。 ・内視鏡検査を受けましょう。 ・ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。 	少し弱った胃粘膜です。胃かいよう・十二指腸かいようなどに注意しましょう。
	C群	<ul style="list-style-type: none"> ・萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。 ・胃がんになりやすいタイプと考えられます。 ・定期的な内視鏡検査をお勧めします。 ・ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。 	弱った胃粘膜です。胃癌などの病気になりやすいタイプです。内視鏡検査を受け、胃の病気の早期発見・早期治療に努めましょう。
	D群	<ul style="list-style-type: none"> ・萎縮が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。 ・胃がんなどの病気になるリスクがあります。 ・ピロリ菌感染診断をお勧めします。 ・かならず専門医療機関で内視鏡などの診断を受けてご相談ください。 	かなり弱った胃粘膜です。胃癌などの病気になるリスクがあります。内視鏡による定期的な検査をお勧めします。
	E群	<ul style="list-style-type: none"> ・ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、E群(除菌群)として定期的な内視鏡検査を受けましょう。 ・E群では除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありませんので、除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。(コメント表記は報告書裏面となります) 	記載無し。

【表 面】

【裏 面】

胃がんリスク層別化検査(ABC分類)報告書

実施医療機関			担当医師	
氏名	様	カテNo.	検査日	
性別	年齢	診療科	報告日	
備考		その他情報	受付No.	

検査項目	測定法	検査結果	陽性判定基準	判定	ABC分類
ヘリコバクター・ピロリ抗体	ELISA	U/mL	3.0以上		
ペプシノゲン	ペプシノゲン I	ラテックス凝縮	ng/mL	ペプシノゲン I 70.0以下	
	ペプシノゲン II	ラテックス凝縮	ng/mL	かつ	
	ペプシノゲン I/II比			ペプシノゲン I/II比 3.0以下	

ABC分類判定結果

A群	B群	C群	D群
<p>A群</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおむね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。 ・逆流性食道炎などピロリ菌に関連しない病気に注意しましょう。 ・未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ感染や感染の既往がある方が含まれます。 ・一度は内視鏡検査などの画像検査を受けることが理想的です。 	<p>B群</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少し弱った胃粘膜です。 ・胃潰瘍、十二指腸潰瘍などに注意しましょう。 ・胃がんのリスクもあります。 ・内視鏡検査を受けましょう。 ・ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。 	<p>C群</p> <ul style="list-style-type: none"> ・萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。 ・胃がんになりやすいタイプと考えられます。 ・定期的な内視鏡検査をお勧めします。 ・ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。 	<p>D群</p> <ul style="list-style-type: none"> ・萎縮が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。 ・胃がんなどの病気になるリスクがあります。 ・ピロリ菌感染診断をお勧めします。 ・かならず専門医療機関で内視鏡などの診断を受けてご相談ください。

株式会社 メディック

胃の健康度を血液でチェック 胃がんリスク層別化検査(ABC分類)

胃がんリスク層別化検査(ABC分類)とは…

胃粘膜萎縮マーカーのペプシノゲン検査と胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃がんの主な原因と考えられているヘリコバクター・ピロリ抗体検査を組み合わせて、胃の健康度をA、B、C、Dで分類するのが**胃がんリスク層別化検査(ABC分類)**です。胃の健康度に応じて内視鏡による精密検査を行うなど、効率的に検診を行う方法です。

ABC分類	ヘリコバクター・ピロリ抗体価		
	(-)	(+)	
ペプシノゲン	(-)	A群	B群
	(+)	D群	C群

ペプシノゲン検査

「ペプシノゲン」という物質の血中濃度を測定することで胃粘膜の健康状態(萎縮)の状態を客観的に調べる検査です。

ヘリコバクター・ピロリ抗体価検査

胃がピロリ菌に感染していないかを調べる検査。ピロリ菌は胃酸の分泌や胃粘膜の免疫機能の働きが不十分な幼少期(4~5歳)頃までに感染すると考えられています。子供のころに感染しなかった場合、大人になってから感染することは稀だと言われてます。

胃の病気のかかりやすさ

A群 < B群 < C群 < D群

ABC分類判定対象外

E群(除菌群)

- ・ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、E群(除菌群)として**定期的な内視鏡検査**を受けましょう。
- ・E群では除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありませんので、除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。

下のいずれかに当てはまる方は正しい結果が得られない場合があります。

- 明らかな上部消化器症状のある方
 - 上部消化器疾患治療中の方
 - プロトンポンプ阻害剤(胃酸を抑える薬)服用中・服用終了後2ヶ月を経過していない方
 - 胃切除後の方
 - 胃不全の方
 - ピロリ菌除菌治療を受けた方
- これらに該当する方は医療機関にご確認、ご相談下さい。

ご不明な点等ございましたら貴院担当もしくは当社お客様窓口までお申し付けください。